

デポ・メドロール水懸注 20mg
デポ・メドロール水懸注 40mg

【この薬は？】

販売名	デポ・メドロール水懸注 20mg Depo-Medrol Sterile Aqueous Suspension 20mg	デポ・メドロール水懸注 40mg Depo-Medrol Sterile Aqueous Suspension 40mg
一般名	メチルプレドニゾン酢酸エステル Methylprednisolone Acetate	
含有量 (1mL中)	20mg	40mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するとき特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、副腎皮質ホルモン剤（ステロイド）と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- ・この薬は、炎症やアレルギー症状を改善したり、免疫を抑制するなどさまざまな働きがあり、多くの病気に用いられます。ただし、病気の原因そのものを治す薬ではありません。
- ・次の病気または次の目的で、医療機関で使用されます。

〔内科・小児科領域〕

- 内分泌疾患
副腎性器症候群

- 膠原病
リウマチ熱（リウマチ性心炎を含む）、エリテマトーデス（全身性及び慢性円板状）、全身性血管炎（高安動脈炎、結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症を含む）、多発性筋炎（皮膚筋炎）
 - アレルギー性疾患
気管支喘息（但し、筋肉内注射以外の投与方法では不適當な場合に限る）、喘息性気管支炎（小児喘息性気管支炎を含む）、薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒（薬疹、中毒疹を含む）、蕁麻疹（慢性例を除く）（重症例に限る）、血清病
 - 血液疾患
溶血性貧血（免疫性又は免疫性機序の疑われるもの）、白血病（急性白血病、慢性骨髄性白血病の急性転化、慢性リンパ性白血病）（皮膚白血病を含む）、顆粒球減少症（本態性、続発性）、紫斑病（血小板減少性及び血小板非減少性）、再生不良性貧血
 - 神経疾患
脳脊髄炎（脳炎、脊髄炎を含む）（但し、一次性脳炎の場合は頭蓋内圧亢進症状がみられ、かつ他剤で効果が不十分なときに短期間用いること）、多発性硬化症（視束脊髄炎を含む）、顔面神経麻痺、脊髄蜘蛛膜炎、小舞蹈病
 - 消化器疾患
胆汁うっ滞型急性肝炎、肝硬変（活動型、難治性腹水を伴うもの、胆汁うっ滞を伴うもの）、劇症肝炎（臨床的に重症とみなされるものを含む）、限局性腸炎、潰瘍性大腸炎
 - 呼吸器疾患
びまん性間質性肺炎（肺線維症）（放射線肺臓炎を含む）
 - 循環器疾患
ネフローゼ及びネフローゼ症候群、うっ血性心不全
 - 重症感染症
重症感染症（化学療法と併用する）
 - 新陳代謝疾患
特発性低血糖症
 - その他内科的疾患
悪性リンパ腫（リンパ肉腫症、細網肉腫症、ホジキン病、皮膚細網症、菌状息肉症）及び類似疾患（近縁疾患）、重症消耗性疾患の全身状態の改善（癌末期、スプルーを含む）
- 〔外科領域〕
- 副腎皮質機能不全患者に対する外科的侵襲、蛇毒・昆虫毒（重症の虫さされを含む）、侵襲後肺水腫
- 〔整形外科領域〕
- 強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）、強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）に伴う四肢関節炎、関節リウマチ、若年性関節リウマチ（スチル病を含む）、リウマチ性多発筋痛、変形性関節症（炎症症状がはっきり認められる場合）、外傷後関節炎、非感染性慢性関節炎、関節周囲炎（非感染性のものに限る）、腱周囲炎（非感染性のものに限る）、腱炎（非感染性のものに限る）、腱鞘炎（非感染性のものに限る）、滑液包炎（非感染性のものに限る）

〔泌尿器科領域〕

- 前立腺癌（他の療法が無効な場合）、陰茎硬結

〔眼科領域〕

- 内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法（ブドウ膜炎、網脈絡膜炎、網膜血管炎、視神経炎、眼窩炎性偽腫瘍、眼窩漏斗尖端部症候群、眼筋麻痺）、外眼部及び前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適當又は不十分な場合（眼瞼炎、結膜炎、角膜炎、強膜炎、虹彩毛様体炎）、眼科領域の術後炎症

〔皮膚科領域〕

- 湿疹・皮膚炎群（急性湿疹、亜急性湿疹、慢性湿疹、接触皮膚炎、貨幣状湿疹、自家感作性皮膚炎、アトピー皮膚炎、乳・幼・小児湿疹、ピダール苔癬、その他の神経皮膚炎、脂漏性皮膚炎、進行性指掌角皮症、その他の手指の皮膚炎、陰部あるいは肛門湿疹、耳介及び外耳道の湿疹・皮膚炎、鼻前庭及び鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎など）（但し、重症例以外は極力投与しないこと）（局注は浸潤、苔癬化の著しい場合のみとする）、痒疹群（小児ストロフルス、蕁麻疹様苔癬、固定蕁麻疹を含む）（但し、重症例に限る、また固定蕁麻疹は局注が望ましい）、乾癬及び類症〔尋常性乾癬（重症例）、乾癬性関節炎、乾癬性紅皮症、膿疱性乾癬、稽留性肢端皮膚炎、疱疹状膿痂疹、ライター症候群（局所皮内は尋常性乾癬のみ）〕、扁平苔癬（重症例に限る）、成年性浮腫性硬化症、紅斑症（多形滲出性紅斑、結節性紅斑）（但し、多形滲出性紅斑の場合は重症例に限る）、IgA血管炎（重症例に限る）、ウェーバークリスチャン病、粘膜皮膚眼症候群〔開口部びらん性外皮症、ステブンス・ジョンソン病、皮膚口内炎、フックス症候群、ペーチェット病（眼症状のない場合）、リップシュッツ急性陰門潰瘍〕、天疱瘡群（尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡、Senear-Usher 症候群、増殖性天疱瘡）、デューリング疱疹状皮膚炎（類天疱瘡、妊娠性疱疹を含む）、帯状疱疹（重症例に限る）、潰瘍性慢性膿皮症、新生児スクレレーマ、レイノー病、紅皮症（ヘブラ紅色皰癬を含む）、限局性強皮症、強皮症、円形脱毛症（悪性型に限る）、早期ケロイド及びケロイド防止

〔耳鼻咽喉科領域〕

- 耳鼻咽喉科領域の手術後の後療法、副鼻腔炎・鼻茸、進行性壊疽性鼻炎、血管運動（神経）性鼻炎、アレルギー性鼻炎、花粉症（枯草熱）、喉頭ポリープ・結節、難治性口内炎及び舌炎（局所療法で治癒しないもの）

〔口腔外科領域〕

- 口腔外科領域手術後の後療法

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・ 過去にデポ・メドロール水懸注に含まれる成分で過敏症のあった人
 - ・ デスマプレシン酢酸塩水和物（ミニリンメルト）を夜間多尿による夜間頻尿に使用している男性
- 次の部位には、この薬を使用することはできません。
 - ・ 感染症のある関節腔内、滑液嚢内、腱鞘内または腱周囲
 - ・ 動揺関節の関節腔内

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・感染症にかかっている人
- ・全身の真菌症にかかっている人
- ・消化性潰瘍、憩室炎の人
- ・精神病の人
- ・結核にかかっている人
- ・単純疱疹性角膜炎の人
- ・後囊白内障の人
- ・緑内障の人
- ・高血圧症の人
- ・電解質異常のある人
- ・血栓症の人
- ・最近、内臓の手術を受けた人
- ・急性心筋梗塞をおこした人
- ・糖尿病の人
- ・骨粗鬆症の人
- ・うっ血性心不全の人
- ・甲状腺機能が低下している人
- ・脂肪肝、脂肪塞栓症の人
- ・重症筋無力症の人
- ・気管支喘息の人
- ・潰瘍性大腸炎（切迫穿孔、膿瘍、他の化膿性感染症の疑いがある場合）の人
- ・B型肝炎ウイルスキャリアの人
- ・腎不全の人
- ・肝硬変の人
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用してはいけない薬や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

[併用してはいけない薬]

生ワクチンまたは弱毒生ワクチン（この薬を免疫抑制がおこる量で使用している場合）：乾燥弱毒生麻しんワクチン、乾燥弱毒生風しんワクチン、乾燥BCGワクチン等

デスマプレシン酢酸塩水和物（男性における夜間多尿による夜間頻尿に使用している場合）：ミニリンメルト

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

使用量、使用回数、使用方法等は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

通常、メチルプレドニゾン酢酸エステルとして成人の使用する量および回数は、

次のとおりです。

注射・注入部位	一回量	使用回数
筋肉内注射	40～120mg	1～2週間隔1回
関節腔内注射	4～40mg	間隔2週以上1回
軟組織内注射	4～40mg	間隔2週以上1回
腱鞘内注射	4～40mg	間隔2週以上1回
滑液嚢内注入	4～40mg	間隔2週以上1回
局所皮内注射	2～8mg宛40mgまで	週1回
注腸	4～120mg	-
ネブライザー	2～10mg	1日1～3回
鼻腔内注入	2～10mg	1日1～3回
副鼻腔内注入	2～10mg	1日1～3回
鼻甲介内注射	4～40mg	-
鼻茸内注射	4～40mg	-
喉頭・気管注入	2～10mg	1日1～3回
中耳腔内注入	2～10mg	1日1～3回

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

〔効能共通〕

- ・この薬を連用した後、急に使用を中止すると、発熱、頭痛、食欲不振、脱力感、筋肉痛、関節痛、ショックなどがあらわれることがあります。中止する場合は徐々に減量されます。医師の指示どおりに使用してください。
- ・B型肝炎ウイルスキャリアの人は、この薬の使用や使用終了後に継続して血液検査が行われます。B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎（発熱、体がだるい、吐き気、嘔吐（おうと）、食欲不振、上腹部痛、皮膚や白目が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる）があらわれることがあるので、症状があらわれた場合には、ただちに医師に連絡してください。
- ・水痘（みずぼうそう）または麻疹（はしか）に感染すると、致命的な経過をたどることがあります。感染が疑われる場合はただちに受診してください。
- ・連用により眼圧亢進、緑内障、後嚢白内障になることがあるので、定期的な検査が行われることがあります。
- ・リンパ系腫瘍のある人は、この薬の使用で腫瘍崩壊症候群（意識の低下、意識の消失、尿量が減る、息苦しい、息切れ）があらわれることがあるので、血液検査や腎機能検査が行われることがあります。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用する可能性があることを医師または薬剤師に伝えてください。

〔強皮症〕

- ・強皮症の人は、この薬の使用で強皮症腎クリーゼがあらわれやすくなるとの報告があるので、使用中は血圧や腎機能検査が行われます。頭痛、むかむかする、嘔吐、視力低下、けいれんなどの症状があらわれた場合には、速やかに医師に連絡してください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、息苦しい
感染症 かんせんしょう	発熱、寒気、体がだるい
続発性副腎皮質機能不全 ぞくはつせいふくじんひしつきのうふぜん	体がだるい、意識の低下、意識の消失、嘔吐、食欲不振、発熱、冷汗が出る、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる
骨粗鬆症 こつそしょうしょう	骨折しやすい、腰・背中の痛み、手足の痛み、背が低くなった、背中が丸くなった
骨頭無菌性壊死 こつとうむきんせいえし	脚の付け根の痛み、膝からももへの痛み、腕の付け根の痛み
胃腸穿孔 いちょうせんこう	激しい腹痛、吐き気、嘔吐、寒気、発熱、ふらつき、息切れ、意識の低下
消化管出血 しょうかかんしゅっけつ	吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、腹痛、便に血が混じる、黒い便が出る
消化性潰瘍 しょうかせいかいよう	吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、腹痛、胃がむかむかする、黒い便が出る
ミオパチー	筋肉の痛み、筋肉のこわばり、筋力の低下、筋萎縮
血栓症 けっせんしょう	ふくらはぎの痛み・腫れ、手足のしびれ、鋭い胸の痛み、突然の息切れ、押しつぶされるような胸の痛み、激しい頭痛、脱力、まひ、めまい、失神、目のかすみ、舌のもつれ、しゃべりにくい
頭蓋内圧亢進 とうがいないあつこうしん	けいれん、意識の低下、頭痛、嘔吐
痙攣 けいれん	顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
精神変調 せいしんへんちょう	普段とは違う精神状態、幻覚、妄想、興奮抑うつ
うつ状態 うつじょうたい	気分がゆううつになる、悲観的になる、思考力の低下、不眠、食欲不振、体がだるい
糖尿病 とうにょうびょう	体がだるい、体重が減る、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える
緑内障 りょくないしょう	目のかすみ、視力の低下、視野が欠けて狭くなる
後囊白内障 こうのうはくないしょう	視力の低下、かすんで見える、まぶしい、眼鏡で視力が出ない

重大な副作用	主な自覚症状
中心性漿液性脈絡網膜症 ちゅうしんせいしょうえきせい みやくらくもうまくしょう	視力の低下、目のかすみ、物がゆがんで見える
多発性後極部網膜色素上皮症 たはつせいこうきょくぶもうまく しきそじょうひしょう	視力の低下、目のかすみ、物がゆがんで見える
心破裂 しんはれつ	気を失う、胸の痛み
うっ血性心不全 うっけつせいしんふぜん	息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重の増加
食道炎 しょくどうえん	胸やけ、すっぱいものが上がってくる
カポジ肉腫 カポジにくしゅ	紫～褐色の消えないあざ、しこり、痛みを伴うあざ、しこり
腱断裂 けんだんれつ	アキレス腱の痛み、歩行障害、注射した指の関節を曲げにくい、注射した指の関節を伸ばしにくい、注射した指の関節が曲がらない
失明 しつめい	光を感じない、目が見えない
視力障害 しりょくしょうがい	文字や形がみえにくい、視野の異常
気管支喘息発作の悪化 きかんしぜんそくほっさのあつか	息をするときゼーゼー鳴る、息をするときヒューヒューと音がする、息苦しい
腫瘍崩壊症候群 しゅようほうかいしょうこうぐん	意識の低下、意識の消失、尿量が減る、息苦しい、息切れ

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	ふらつき、発熱、寒気、体がだるい、冷汗が出る、骨折しやすい、背が低くなった、脱力、まひ、けいれん、顔や手足の筋肉がぴくつく、体重が減る、疲れやすい、むくみ、体重の増加
頭部	意識の消失、意識の低下、激しい頭痛、めまい、失神、頭痛、一時的にボーっとする、普段とは違う精神状態、幻覚、妄想、興奮抑うつ、気分がゆううつになる、悲観的になる、思考力の低下、不眠、気を失う
顔面	顔面蒼白
眼	目のかすみ、視力の低下、視野が欠けて狭くなる、かすんで見える、まぶしい、眼鏡で視力が出ない、物がゆがんで見える、光を感じない、目が見えない、文字や形がみえにくい、視野の異常

部位	自覚症状
口や喉	喉のかゆみ、嘔吐、吐き気、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、舌のもつれ、しゃべりにくい、喉が渇く、水を多く飲む、息をするときゼーゼー鳴る
胸部	動悸、息苦しい、息切れ、鋭い胸の痛み、突然の息切れ、押しつぶされるような胸の痛み、胸の痛み、胸やけ、すっぱいものが上がってくる、息をするときヒューヒューと音がする
腹部	食欲不振、激しい腹痛、胃痛、胃がむかむかする
背中	腰・背中での痛み、背中が丸くなった
手・足	手足が冷たくなる、手足の痛み、脚の付け根の痛み、膝からももへの痛み、腕の付け根の痛み、ふくらはぎの痛み・腫れ、手足のしびれ、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、アキレス腱の痛み、歩行障害、注射した指の関節を曲げにくい、注射した指の関節を伸ばしにくい、注射した指の関節が曲がらない
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、紫～褐色の消えないあざ、しこり、痛みを伴うあざ、しこり
筋肉	筋肉の痛み、筋肉のこわばり、筋力の低下、筋萎縮
便	便に血が混じる、黒い便が出る
尿	尿量が増える、尿量が減る

【この薬の形は？】

販売名	デポ・メドロール水懸注 20mg	デポ・メドロール水懸注 40mg
性状	水性懸濁注射液	
形状		

【この薬に含まれているのは？】

販売名	デポ・メドロール水懸注 20mg	デポ・メドロール水懸注 40mg
有効成分	メチルプレドニゾン酢酸エステル	
添加剤	カアトレジン 0.2mg マクロゴール4000 30mg pH調節剤 等張化剤	カアトレジン 0.2mg マクロゴール4000 29mg pH調節剤 等張化剤

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ファイザー株式会社

(<https://www.pfizer.co.jp/pfizer/>)

製品情報センター（患者さん・一般の方）

電話：0120-965-485

FAX：03-3379-3053

受付時間：月～金 9時～17時30分

（土日祝祭日および弊社休業日を除く）